

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5315 近現代の文学3			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	水曜2限				
教室	J201教室				
代表教員	田村 景子				
担当教員	田村 景子				
テーマと到達目標	副題：戦後文学≡戦争文学を読みなおす 戦後日本文学は、戦争への総括と自らの生との直面、すなわち「生きよ堕ちよ」（坂口安吾）から始まった。その試みは、高度経済成長期におけるさまざまな文学表象にも底流し、3・11もしくは9・19以降、そして2025年を生きる私たちにとっても遠いものではない。分断と「新しい戦争」の時代を生きるために、戦後文学史に暗くきらめく戦争の表象をたどろう。				
概要	無頼派、第一次戦後派、第二次戦後派……現代日本文学の繚乱期から、第三の新人を経て、高度経済成長期の文学へ。映画やアニメーションをも媒介に、戦闘・戦場・戦争を記述し続けた現代日本文学の豊饒なうねりを丹念にたどる授業は講義形式の予定だが、受講人数によってはグループ討議や発表もとりいれる。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	ガイダンス				対面授業
第2回	戦争は過去なのか――3・11後文学とイマジネーションの戦争？				対面授業
第3回	生きよ堕ちよ――坂口安吾『墮落論』				対面授業
第4回	私はあなたとつながらない――野間宏『顔の中の赤い月』における戦争				対面授業
第5回	私はただ我慢している――武田泰淳『ひかりごけ』				対面授業
第6回	戦後という悪夢――島尾敏雄『出発は遂に訪れず』から				対面授業
第7回	などてすめらぎは人間となりたまいし――三島由紀夫『英霊の声』				対面授業
第8回	戦闘文学／戦場文学――大岡昇平『俘虜記』				対面授業
第9回	「俺たちはいつまでも同じことやろか」――遠藤周作『海と毒薬』を映画化から				対面授業
第10回	「俺たちはいつまでも同じことやろか」――遠藤周作『海と毒薬』を小説で				対面授業
第11回	社会派ミステリーの暴露――松本清張『ゼロの焦点』				対面授業
第12回	SFの描く「あの」戦争――小松左京『地には平和を』『戦争はなかった』				対面授業
第13回	戦後とは何だったのか――開高健『日本三文オペラ』と梁石日『夜を賭けて』				対面授業
第14回	今は戦後なのか――高嶺剛『パラダイスビュー』と目取真俊『沖縄戦後ゼロ年』				対面授業
第15回	戦争／戦後文学をふりかえて				対面授業
成績評価の基準	授業態度50％、期末試験（教場レポートを予定）50％で評価し、2／3以上の出席がない場合は単位認定を行わない。なお受講態度は、授業への貢献度、授業中の小課題への取り組みなどを総合して判断する。				
履修にあたっての留意事項	「近現代の文学4」との継続履修が望ましい。 扱う作品は、受講者の関心と反応により随時変更する。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	通常授業時はなし。オンライン授業に移行した場合は、資料のダウンロードや印刷を受講者各自が行うこと。		
教科書	なし。配布プリントによって授業する。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に指示する。ただし受講者には、Webシラバスに挙げた主要作をはじめ、積極的で広範な読書を期待したい。	参考文献(ISBN)	